

古屋敷遺跡



島根県教育庁埋蔵文化財調査センター

2018年3月

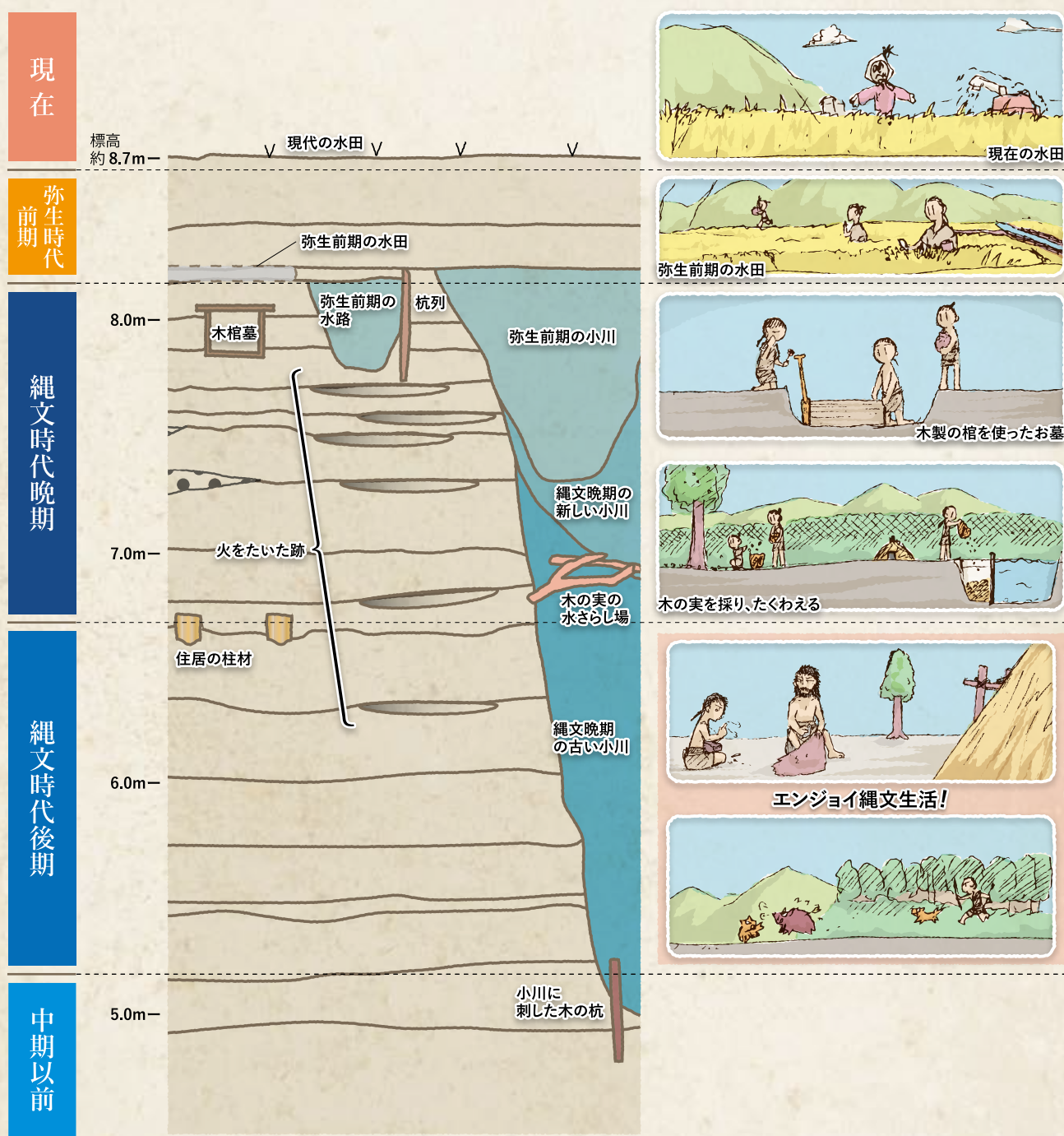
古屋敷遺跡とは？

島根県大田市仁摩町にある古屋敷遺跡は、縄文時代後期から弥生時代前期の遺跡です。山陰自動車道（静間仁摩道路）の建設に先立ち、平成25～27年（2013～2015年）にかけて発掘調査が行われ、数多くの貴重な発見がありました。ここでは、調査で明らかになった古屋敷遺跡の姿について紹介します。



古屋敷遺跡は日本海に注ぐ潮川^{うしお}に面した、仁摩平野最奥部にあります。現在は一面に水田が広がっていますが、その下には縄文時代から弥生時代にかけて人々が生活した痕跡が、幾重にも積み重なって残っていました。当時は山裾にそって潮川から分岐した小川が流れており、人々は小川と潮川に挟まれた平地を水田や居住地として利用しながら生活していたようです。遺跡からは、彼らが生活に使用していた土器や石器などのさまざまな道具類が出土しました。また、木の実を貯蔵した水さらし場や建物跡、お墓なども見つかりました。

古屋敷遺跡の地下のようす



縄文時代の古屋敷遺跡

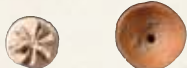
古屋敷遺跡では、縄文時代後期でいた痕跡が見つかりました。縄文し、様々な道具を駆使して生活して物の採取に使われたと考えられる用いられた石器類、水辺に保管さの生活をほうふつとさせる遺物が



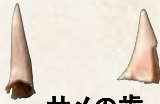
タイのあごの骨



石 錘



ニシンの歯



サメの歯



出土した網用のおもり錘

近くの海や川で漁をしたのかな？
遺跡からは魚骨やサメの歯もみつ
かっています。



石 斧
(木を切り倒す道具)



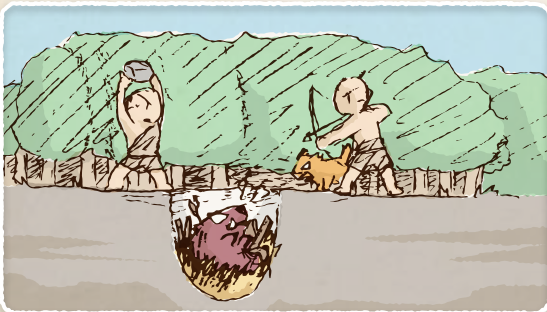
木製の弓
(全長114cm)



円形にわずかに窪んだ痕跡は、建物跡のよ
うです。木を切り倒して柱材とし、屋根を葺
いて住いとしていたようです。

出土した弓と矢じり

弓矢などを使って、シカやイノシシを獲っていたのかな？



注目の出土品1



復元図

東日本の流行を取入れた!

彩文土器さいもん

黒色に焼き上げた土器の表面に赤色
顔料を塗ることにより、文様(「C」と逆
「C」)を描き出しています。浅鉢と呼ば
れる器で、縄文時代晩期の西日本では一
般的な器種ですが、文様は東日本で多
く用いられるものをモチーフとしてお
り、島根県内では2例目の確認となりま
す。縄文時代晩期の日本列島における
東西交流を示す資料です。



から弥生時代に至るまで、人々が暮らし人たちは、簡単な建物を建てて住いていました。遺跡からは、狩猟や漁労、植道具類や、それらを加工・調理するのにれたトチやクルミの実、魚骨など、彼ら出土しています。

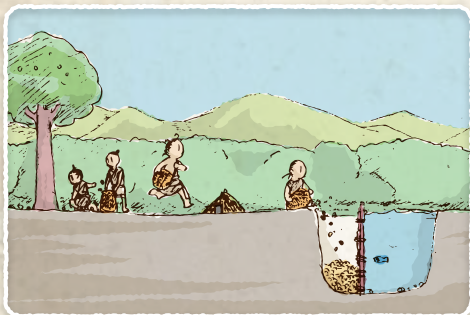


石 鍬
(土を掘る道具)

遺跡からは、根菜類などを掘ったと考えられる石斧や調理に用いた石皿・叩き石、トチやクルミの残骸などが見つかり、縄文人たちの食生活の様子があがります。



石皿と叩き石を使って、木の实を割った



マジカルアイテム?

古屋敷遺跡では、表面に線や刻み目を入れたり、表面をつるつるに磨いたりしたナゾの石がいくつも出土しています。丸いものや四角いものなど形は様々で、小さいものは直径2センチほど、大きいものでは拳くらいのものであります。遺跡の周辺ではあまり見られない、白色の凝灰岩を選んで加工しているようです。

これらの使い方はよくわかりませんが、まじないの道具やお守りなどとして使われたのかもしれない。



木製の棺を使った墓

古屋敷遺跡では木製の板と杭を組んでつくられた棺が見つかりました。木材を薄い板に加工するためには高い技術が必要で、西日本では弥生時代以降の墓に採用される例が増えます。

この木棺は、全長が1mに満たない小さいもので、大人の墓としては窮屈です。成人していない若者のお墓だったのかもしれませんが、丁寧に作られた棺に埋葬されたこの人物は、どんな人だったのでしょうか?



注目の出土品2

縄文人はお洒落さん? 漆塗りの櫛

古屋敷遺跡からは、島根県初の発見となる縄文時代の漆塗りの櫛が2点見つかりました。1つは美しい赤漆で塗られたものでした。もう1つは黒漆でちょっと地味な櫛ですが、半分以上が残っており、特徴的な角状の装飾を持つ櫛であることがわかりました。

X線CT装置で内部の様子を調べた結果、マッチ棒ほどの太さの棒を組み合わせて骨組みを作り、漆を塗り固めて作られていました。

この他、耳栓と呼ばれる耳飾りも出土しており、縄文人の好んだお洒落アイテムが明らかになりました。

漆塗り櫛



土製の耳飾り



復元図



弥生時代の古屋敷遺跡

本格的な米作りの時代が やってきた!?

古屋敷遺跡では、遺跡の東西を貫く幅1mほどの水路が発見されています。この水路は、遺跡の東側を流れる潮川から水を引いた、^{かんがい}灌漑用の水路だと考えられます。さらに、遺跡の北西部では、不整形ながら、^{あぜ}畦の痕跡を検出しました。

この水路や畦が造られた時代は、弥生時代前期。古屋敷遺跡でも、本格的に稲作が行われる時代に突入したようです。

稲作は、日本では北部九州から始まり、縄文土器とは異なるデザインを持つ弥生土器、穂摘み具などに用いられる新型の石器、そして灌漑技術^{いんぎょう}がセットになって、列島各地へ伝えられていくようです。特に弥生土器の壺は、^{いんもち}稲粳を運んだ道具と考える説もあり、以前に旧仁摩町が実施した発掘調査では、炭化米も出土していることから、注目されます。



灌漑水路が曲がる場所では、水路の壁が崩れないように、たくさんの杭が打ち込まれています。



川跡の中から出土した弥生土器の壺

真上から見た古屋

写真上が北です。北東側からように、南から西に向かっていま跡の中程を貫くように灌漑水路田跡が見つかったのは、遺跡の北北側には水田が広がっていたのまた、この水路を挟んだ南側にいた可能性のある炭の詰まった土として、南北で異なる土地利用が



古屋敷遺跡北西部では、畦を発見! 水田跡と考えられます。

畦は、幅約50cm、高さ約10cm程で、一辺3~5mほどの長方形の区画を作り出しています。この区画がそれぞれ一枚の水田です。南側には、同じ時期の灌漑用の水路が通っています。

土器と灰が詰まったなぞの土坑^{どこう}。土器を焼いた施設でしょうか?



敷遺跡

流れてきた川が、遺跡を回り込む。また、東側から水を引いて、遺が造られていました。畦が残る水西部です。おそらく、水路よりもでしょう。

は、墓と思われる穴や、土器を焼坑が見つっています。水路を境行われていたかもしれません。



弥生時代の土器と石器

縄文時代にはあまり見られなかった、丸い胴部と細い首を備えた壺形土器。肩の部分には、文様も描かれています。手前は、弥生時代になって使われ始めた新型の石器。古屋敷遺跡では、穂摘み具や新しい形の斧などの縄文時代にはなかった道具が発見されました。

古屋敷遺跡の変遷

古屋敷遺跡では、縄文時代後期から弥生時代前期までの約2,000年間、人々の営みが途切れることなく続きました。また、縄文時代の木棺墓や漆塗りの櫛は島根県内では初めての発見となる貴重なものでした。古屋敷遺跡の移り変わりをあらためてまとめてみましょう。

年代	時代 時期	古屋敷遺跡の出来事	日本列島の主な出来事 島根県の主な出来事
4500年前	縄文時代 中期	海岸線後退・ 遺跡周辺陸地化	関東に大規模な貝塚：加曾利貝塚(千葉県)ほか 三瓶山の噴火
4000年前		最も古い土器 	三瓶山東麓に竪穴建物群からなる集落：五明田遺跡(飯南町) 出雲平野西部で沿岸漁撈：三田谷I遺跡(出雲市)ほか
3500年前	後期	北部九州との交流 (九州の土器の文様) 	三瓶山の噴火・小豆原埋没林の形成(大田市)
3000年前		人々の営み 	東北で大規模なマツリの施設：大湯環状列石(秋田県) 東北地方から運ばれた土偶：下山遺跡(飯南町)
2500年前	晩期 弥生時代	住居の柱材 建物跡 彩文土器(東日本との交流) 木の実の水さらし場 漆塗りの櫛 木棺墓	東日本で遮光器土偶：亀ヶ岡遺跡(青森県)ほか 斐伊川上流域で土偶のマツリ：原田遺跡(雲南市)
2500年前		水田・水路	北部九州で水田稲作：菜畑遺跡(佐賀県) 稲の粃痕がある土器：板屋III遺跡(飯南町) 日本海沿岸部に大規模集落：矢野遺跡(出雲市) 西川津遺跡(松江市)

線や刻目をもつ石・磨かれた石
炉(火を焚いた跡)
魚の骨や歯・トチやクルミ